

# 西之表市第 8 期 介護保険事業計画の評価

- ・ 主要事業の進捗状況

(令和 4 年 10 月作成)

1 主要事業の進捗状況・・・・・・・・・・1～20P

# 1 主要事業の進捗状況

基本方針1 住み慣れた地域でお互いを支え合う地域共生社会づくり

## 第1節 地域包括支援センターの機能強化と地域共生社会の構築

### ○ 地域ケア会議の推進

包括ケア会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	上半期	目標	実績
1回	1(書面送付)	1回	0回	1回	

R4上半期実績

地域ケア会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	上半期	目標	実績
36回	7回	36回	9回	36回	

R4上半期実績

地域ケア個別会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	上半期	目標	実績
12回	5回	12回	3回	12回	

R4上半期実績

#### 【R3自己評価等】

コロナ禍で地域ケア会議（第2層協議体）との情報共有も進まず、目標を大きく下回る結果となってしまった。情報収集の方法等もあらゆる方面から検討が必要と思われる。

地域ケア個別会議は、今年度から2か月に1回の開催に変更したが、コロナ流行時には開催できないこともあり、目標達成はできなかった。リモート会議ができるよう会議の体制を考え直す必要がある。また、1回も協力してもらえなかった職種（助言者）があったため、会議の必要性、意義を踏まえた助言者向けのスキルアップ研修会を定期的に開催していく必要がある。

モニタリングの方法も十分に検討できないまま、実施したため、再度様式等の見直しを検討したい。

地域ケア個別会議で検討した事例のモニタリングの実施件数 10件

地域ケア個別会議の助言者向けスキルアップ研修会の開催回数 0回

#### 【R4上半期自己評価等】

地域ケア会議はコロナ禍の影響を受け、上半期の開催回数は少なくなっている。

4年度もコロナ禍により、協議会開催は慎重になっている。会の構成員は高齢者が多くやむをえないものとする。

地域ケア個別会議は、昨年度から2か月に1回の開催に変更しており、事例件数を1回あたり1件から2件へ変更している。オンライン会議も併用しながらの開催で、感染対策を講じながら定期的の実施している。年度末には事例からの課題を積み重ね、地域課題を提言できるよう取り組みたい。

○ 地域共生社会の実現に向けた取組

● 高齢者台帳の整備

【R3自己評価等】

高齢者支援協議会の開催時に地域の気になる高齢者名簿の作成を行うこととしているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、協議会の開催が制限され、一部地域のみで作成となった。今後感染状況に応じて事業展開する。

【R4上半期自己評価等】

高齢者支援協議会で聞き取った情報等により台帳を更新し、必要な時に活用できるよう管理している。

● 生活支援コーディネーターの配置

生活支援コーディネーターの配置数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
第1層（市全域）					
1人	1人	1人	0人	1人	
第2層（日常生活圏域）					
3人	3人	3人	0人	3人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

生活支援コーディネーターを計画どおり4名確保できた。今後も幅広く求人情報を周知し、安定雇用に努める。

【R4上半期自己評価等】

生活支援コーディネーターを配置できず職員で対応しているが、地域から高齢者の困りごとの吸い上げができず、それに伴う生活支援、介護予防までつなげられていない。

## 第2節 認知症施策の総合的な推進

○ 認知症に関する理解促進

【R3自己評価等】

認知症に関する健康教育 5回（対象：地域サロン等）

【R4上半期自己評価等】

認知症に関する健康教育 2回（対象：地域サロン）

○ 早期発見・早期対応システムの充実

● 認知症初期集中支援チームの設置

認知症初期集中支援チーム員会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
12回	10回	12回	5回	12回	

R4上半期実績

認知症初期集中支援チーム検討件数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
40件	25件	40件	7件	40件	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

認知症初期集中支援チームのケース検討数が減少しているが、介入困難事例で長期の支援が必要なケースが出てきている。認知症に関する相談も多いため、チーム員介入へつなげるケースの見極め等をスムーズに行う必要がある。

認知症初期集中支援チーム支援実績（介入件数5件、ケース検討25件）

【R4上半期自己評価等】

認知症初期集中支援チーム員は、様々な職種に協力をいただき、多様な視点から検討できる体制が整いつつある。事例に関しては、包括支援センターで早期介入が困難なケースや課題が複雑化、多様化し、多職種での支援が必要なケース等を検討する機会が増えてきている。

● 認知症高齢者見守りネットワーク事業の推進

見守り台帳登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
30人	26人	32人	23人	35人	

R4上半期実績

○ 認知症の方とその家族への支援

認知症カフェ参加者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
250人	0人	280人	0人	300人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

認知症カフェの開催がコロナ禍でできなかったため、認知症サポーターの活動につなげる機会も減ってしまった。ステップアップ講座の開催等で再度認知症への認識を高め、柔軟に活動へつながられる体制整備に取り組んでいきたい。

認知症の人や家族等が気軽に集う場が未設置の地域において、認知症地域支援推進員を中心に認知症カフェ等の開催を検討していく。

【R4上半期自己評価等】

せいざん病院と協力し、市内巡回型認知症カフェの開催を検討していたが、島内の新型コロナウイルス感染拡大のため、開催が困難な状況であった。また、現和校区高齢者支援協議会で開催に向けた提案をしたが、開催にむけた積極的な意見はなかった。また開催する際の送迎や開催時間など多数の意見もあった為、各校区・地域高齢者支援協議会等と協議を重ねて、年度内の開催に向けて取り組んでいきたい。

○ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の方への支援

認知症サポーター養成講座の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
5回	2回	5回	0回	5回	

R4上半期実績

認知症サポーター登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2,150人	2,176人	2,200人	2,176人	2,250人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

認知症サポーター活動数 0件

【R4上半期自己評価等】

企業向け、中学校・高校向けに認知症サポーター養成講座について案内通知したが、コロナ禍も影響したのか講座開催につながらなかった。サポーターのステップアップ講座開催に向けて、具体的に検討を進めていく。

キャラバンメイト登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
18人	17人	19人	18人	20人	

R4上半期実績

### 第3節 在宅医療・介護連携の推進

#### ○ 地域住民への普及啓発

在宅医療に関する普及啓発活動回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1回	1回	1回	0回	1回	

R4上半期実績

#### 【R3自己評価等】

地域住民に対する「人生の最終段階における医療・ケア」に係る情報の普及啓発は、広報誌を通じての周知にとどまった。今後は、講演会開催も視野に入れて取り組んでいきたい。

#### 【R4上半期自己評価等】

市民向け講座として、エンディングノートの体験講座の開催に向けて準備を進めている。

#### ○ 医療・介護関係者の研修

多職種連携研修会の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	3回	2回	0回	2回	

R4上半期実績

#### 【R3自己評価等】

医療・介護関係者の多職種向けの研修を実施し、「人生の最終段階における医療・ケア」の研修や自立支援に向けた考え方についてなど多機関から参加いただき、開催できた。今後は、グループワーク等ができる環境づくりも整備していきたい。

#### 【R4上半期自己評価等】

高齢者虐待防止法について理解を深めるための研修を下半期に予定している。

#### ○ 医療・介護関係者の情報共有の支援

介護・医療合同会議の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1回	1回	1回	1回（書面開催）	1回	

R4上半期実績

#### 【R3自己評価等】

退院調整ルール運用を通してコロナ禍という環境ではあるが、医療・介護関係者の情報共有の支援及び関係市町との連携を図ることはできた。

退院調整漏れ率 12.5%

#### 【R4上半期自己評価等】

コロナ禍で通常通りの退院調整ルールが運営できる状況ではないが、書面上で運用状況を関係機関で振り返った。今後は、アンケートを通して広域的に入退院調整率を確認していく。

基本方針2 健康づくり・介護予防の推進

第4節 自立支援、介護予防・重度化防止への取組の推進

○ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

● 介護予防・生活支援サービス事業の充実

通所型サービス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
通所介護相当サービス					
700人	805人	750人	426人	800人	
通所型サービスA（緩和した基準によるサービス）					
1,350人	1,138人	1,400人	406人	1,450人	
通所型サービスC（短期集中予防サービス）					
100人	113人	100人	57人	100人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

通所介護相当サービス利用者数が増加し、対照的に通所型サービスAの利用者数が減少（目標1,350人、実績1,138人）しているが、当サービスによる重度化防止が図られていると考える。通所介護相当サービス利用者数が増加したことについては、地域活動の減少による外出や他者交流の機会が減少したことが原因の一つとして考えられる。

【R4上半期自己評価等】

多様なニーズに対してサービスを提供しているが、通所利用者においては、地域における送迎支援が不足していることから改善目的が達成しても地域サロン等への移行が難しい傾向にある。

訪問型サービス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
訪問介護相当サービス					
820人	769人	900人	323人	980人	
訪問型サービスC（短期集中予防サービス）					
1人	2人	1人	0人	1人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

新型コロナウイルス感染症拡大により、サービス提供の見合わせや利用者の自粛による実績が減少したと考えられる。

【R4上半期自己評価等】

訪問介護事業所が介護人材不足を理由にサービス提供ができなくなっている。

## ●一般介護予防事業の充実

### ◆自立支援・介護予防に関する普及啓発

#### 【R3自己評価等】

鹿児島大学病院との連携事業である「種子島スタディ事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響のため休止中である。

令和3年度は、既に実施済の地域及び立ち上げ1年経過地域へ口腔体操の普及を行った。

#### 【R4上半期自己評価等】

口腔体操や鹿児島大学病院との「種子島スタディ事業」は、新型コロナウイルス感染症の感染状況をしながら、再開に向けて検討している。

### ◆地域介護予防活動支援

#### 【R3自己評価等】

関係機関から協力を仰ぎ、専門職を派遣し、地域サロンで介護予防に関する健康講話を実施した。

元気アップ体操を実施する地域へ健康運動指導士によるフォローを行った。また、管理栄養士・理学療法士によるミニ講話を実施した。

#### 【R4上半期自己評価等】

地域サロンや介護予防体操に取り組む集いの場で、専門職による介護予防に関する講話を希望に応じて講師派遣し、普及啓発に努めた。

元気アップ体操の活動継続支援のため、体力測定の実施や健康運動指導士・管理栄養士が巡回フォローしている。

### ◆介護予防把握

#### 【R3自己評価等】

訪問看護師の実態把握訪問から身体機能等の低下がみられる方の早期発見につなげた。

#### 【R4上半期自己評価等】

訪問看護師の実態把握訪問を継続し、必要なサービスや定期的な見守りへつなげた。

### ◆地域リハビリテーション活動支援

#### 【R3自己評価等】

市内のリハビリテーション専門職と連携し、通いの場や事業所、個別訪問で自立支援に向けた指導・助言を行った。

#### 【R4上半期自己評価等】

口腔機能の低下が見られる方に、歯科衛生士が個別訪問し、家庭で取り組める方法や歯科受診勧奨を行った。

## ○ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

#### 【R3自己評価等】

健康保険課と高齢者支援課で健診データの共有や保健事業の合同開催をすることにより、個別保健指導や集団健康教育にてフレイル予防に向けた取り組みを行った。

#### 【R4上半期自己評価等】

地域サロンの場で、国保年金系の保健師にデータからみる現状と生活習慣病予防について健康教育を実施した。



○ リハビリテーションサービス提供体制構築のための取組

【R3自己評価等】

熊毛支庁保健福祉環境部健康企画課課主催で熊毛圏域リハビリテーション広域支援センターと1市2町行政職による種子島地区地域リハビリテーション活動促進検討会（書面開催）が開催され、リハビリテーション専門職の地域支援事業への従事依頼状況・計画の確認を行い、体制構築が図られた。

【R4上半期自己評価等】

医療と介護の両面にまたがる分野であるため、一つの市町村の検討では困難を伴うものであり、県との連携や支援が必要。今後は、本市の現状について、KDBデータや「見える化システム」等のデータを活用し、分析、把握を行っていく、

基本方針3 安心安全に暮らせる生活環境の整備

第5節 日常生活を支援する体制の整備

○ 在宅生活を支援するサービスの充実

通報装置設置台数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
100台	81台	110台	79台	120台	

R4上半期実績

住宅改修に係る理由書作成助成の申請件数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
10件	2件	10件	0件	10件	

R4上半期実績

○ 家族介護者への支援

● 介護に係る経済的負担の軽減

介護手当支給人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
105人	93人	110人	0人	115人	

R4上半期実績

紙おむつ支給人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
510人	478人	530人	410人	550人	

R4上半期実績

○ 高齢者の虐待防止と権利擁護の取組の推進

● 高齢者虐待に関する相談・支援

【R3自己評価等】

相談件数 5件

関係機関と協力し、終結に向けた介入支援に取り組んでいる。

虐待の高リスク家庭の把握のため、市民に向けた周知を継続して行っていく。

【R4上半期自己評価等】

相談件数 4件

県や関係機関と協力し、終結に向けた介入支援に取り組んでいる。今後については、市民に向けた周知を継続し、各サービス事業所についても高齢者虐待の対応に理解促進のために研修会やマニュアルの作成等を進めていきたい。

● 成年後見制度の周知・利用促進

【R3自己評価等】

相談実績 7件（うち弁護士につないだ件数 1件）

制度利用実績 0件

地域の支援者を対象に研修会を開催し、制度の周知を行った。来年度は制度理解を深めるため、地域での研修会を開催し、継続した周知活動を行っていく。

【R4上半期自己評価等】

相談実績 1件

制度利用実績 0件

相談があったケースについては対応検討会議までスムーズに行えた。今後、対応方法の確立化のためにも事例を積み重ね、マニュアル作成につなげられるようにする。

● 権利擁護支援体制の整備

【R3自己評価等】

庁内連携は構築されている。今後は、医療機関や弁護士会、社会福祉士会等の専門職への相談ネットワーク構築に取り組んでいく必要がある。

【R4上半期自己評価等】

権利擁護の相談窓口として周知はできている。しかし、事例の積み重ねが少ないため対応の流れについて確立が出来ていないため、高齢者虐待や成年後見制度についてのマニュアル作成していく必要がある。

基本方針4 高齢者や家族が健やかで生きがいに満ちたライフスタイルの確立

第6節 生きがいづくりや社会参加の促進

○ 社会参加の促進と活動機会の充実

● 地域貢献・交流活動への参加促進

高齢者元気度アップ地域活性化事業登録団体数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
130団体	134団体	140団体	118団体	140団体	

R4上半期実績

高齢者元気度アップ地域活性化事業登録人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
3,100人	3,194人	3,200人	2,975人	3,200人	

R4上半期実績

地域サロンの実施箇所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
53か所	49か所	55か所	43か所	57か所	

R4上半期実績

よろ～て元気アップ教室の実施箇所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
52か所	52か所	52か所	54か所	52か所	

R4上半期実績

元気アップ教室に参加する高齢者の数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
780人	895人	800人	786人	820人	

R4上半期実績

いきいき遊湯クラブ実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
110回	33回	120回	4回	130回	

R4上半期実績

遊湯バス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1,300人	200人	1,310人	25人	1,320人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

住民主体の「通いの場」未設置地域については、引き続き設立推進をすすめる。また支援者の人材育成に取り組む。

いきいき遊湯クラブは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による自粛期間があったため、実施回数、利用者数ともに減少した。

【R4上半期自己評価等】

通いの場は、元気アップ体操を行う団体1箇所を地域包括支援センターと連携し設立、同時に支援者確保もできた。今後も新型コロナウイルス感染症状況を把握しながら取り組む。

いきいき遊湯クラブは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により活動を自粛する団体が多かったため、実施回数、利用者数ともに減少した。

○ 地域における支援者の人材確保・育成

● 高齢者支援協議会の設置推進

高齢者支援協議会開催回数（校区・地域）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
36回	7回	36回	9回	36回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

高齢者支援協議会活動で、高齢者見守りを行った人数 506人

高齢者支援協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数が減少した。

高齢者支援協議会の役割の再整理を行い、委託内容及び委託料の見直しを行った。

委託内容：これまでの見守り活動に加え、生活支援活動にも対応。

委託料：人口規模及び活動実績に応じた算定方法に変更。

区長会・高齢者支援協議会連絡会で説明を行い、了承を得た。

今後は、生活支援を必要とする高齢者の状況を把握し、新たな支援事業の構築に向け検討する。

【R4上半期自己評価等】

高齢者支援協議会活動で、高齢者見守りを行う人数 596人

高齢者支援協議会は、昨年度を超えてはいるが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数はコロナ禍前と比較すると少ない。

高齢者支援協議会の委託内容や委託料の変更を行っており、上半期には高齢者の人口に応じた。

●支援者・地域支え合い推進員の育成・研修の充実

介護予防サポーター養成講座の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
3回	0回	3回	0回	3回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

生活支援サービスの充実に向け、ボランティア等担い手の発掘・育成のため介護予防サポーター養成講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため実施できなかった。今後、感染症の状況に応じて対策を講じながら事業展開を行う。

【R4上半期自己評価等】

新型コロナウイルス感染対策のため研修の実施を見送っている。

○ 元気高齢者の活躍できる場の確保・就労の促進

●シルバー人材センターの活動支援

【R3自己評価等】

シルバー人材センターに関する業務が令和4年度から福祉事務所社会福祉係から高齢者支援課高齢者支援係へ所管替えされることとなるため、高齢者の就労促進等に連携して取り組む。

【R4上半期自己評価等】

補助金を交付し事業活動を支援している。

●就労的活動支援コーディネーターの配置の検討

【R3自己評価等】

現時点では未検討であるが、他自治体の事例等も調査研究し、検討を進める。

【R4上半期自己評価等】

関係機関であるハローワークと協議を行っている。

基本方針5 介護福祉サービスの充実と安定した提供体制の確保

第7節 介護サービス提供基盤の確保・充実

○ サービス提供基盤の整備

地域密着型通所介護事業所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
11事業所	11事業所	11事業所	11事業所	11事業所	

R4上半期実績

○ 介護人材の確保及び資質の向上

●事業者の人材確保・育成に対する支援

魅力発信の取組

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1回	0回	1回	0回	1回	

R4上半期実績

移住相談会場での就業相談者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
3人	0人	3人	0人	3人	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

新型コロナウイルス感染症の影響等があり、県や介護事業所等と連携した魅力発信の取組や相談会は実施できなかった。

【R4上半期自己評価等】

県や介護事業所等と連携した魅力発信の取組や相談会は実施できていないが、次年度の事業展開に向け、庁内関係部署と協議を行っている。また、新型コロナウイルス感染拡大により、濃厚接触者となった介護従事者の早期復帰のための支援を実施した。

●介護スタッフの専門性向上に向けた研修

ケアマネジメント業務研修会

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	3回	2回	1回	2回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

介護支援専門員向けの研修会を2回実施した。（外部講師）

「ケアマネジメントのおさらい」5月17日

「ケアプラン作成の考え方」2月25日

保険者向けの研修会も実施し、ケアプラン点検の手法を学んだ。（外部講師）

「効果的なケアプラン点検に向けて」5月17日

【R4上半期自己評価等】

介護支援専門員向けの研修会を実施した。（外部講師）

「信頼関係の構築のしかた～面接を通して情報収集の手法を学ぶ～」と題して、アセスメントにおける利用者や家族との信頼関係の構築やアセスメントにおける情報収集の整理の仕方を研修テーマにして実施 8月25日

○ 介護事業所の適正運営に向けた取組

実地指導（居宅介護支援事業所・地域密着型事業所）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	2回	2回	0回	2回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

実地指導の際に、ケアマネジメント資料の事前点検を実施した。これにより実地指導訪問時の個別支援計画書の確認等の効率化が図られ、効果的な助言へつなげた。

居宅介護支援事業所 3か所 10月28日、10月29日

地域密着型事業所 3か所 10月22日、10月28日

【R4上半期自己評価等】

令和4年12月上旬に実施予定。

居宅介護支援事業所 2か所

地域密着型事業所 3か所

集団指導（居宅介護支援事業所・地域密着型事業所）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	1回	2回	2回	2回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

居宅介護支援事業所・地域密着型事業所合同で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、資料を作成し、書面開催とした。9月

【R4上半期自己評価等】

居宅介護支援事業所・地域密着型事業所に対して、集合形式とオンライン形式を合わせたハイブリッド型により実施した。10月。今後もコロナ禍でも可能な方法で事業を実施していく。

第8節 介護保険事業の適正な運営

○ 介護保険給付の適正化

◆要介護認定の適正化

要介護認定における重度変更率の平準化

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
8.7%	10.2%	8.0%	10.7%	7.4%	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

重度変更率は、県平均との差が大きくなった。 鹿児島県7.0%

認定調査員地区別（現任）研修会へリモートにより参加し、意見交換ができた。今後の判断時のばらつきをなくしていく。

介護認定審査会委員地区別（現任）研修会は新型コロナウイルス感染症の影響で書面研修となり、意見交換はできなかった。

調査資料に矛盾がないかのチェック 100%

【R4上半期自己評価等】

重度変更率はR3年度より、差が広がっている。

新型コロナウイルス感染症の影響により病院や施設での認定調査や主治医意見書の為の病院受診ができず、例年に比べ、申請から1ヶ月で認定が行えないケースが多かった。

◆ケアプラン点検

ケアプラン点検数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
36件	10件	36件	0件	36件	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

前年度（R2年度）に実施したケアプラン点検について、「結果報告会」を開催し、点検結果と指摘事項等を全居宅介護支援事業所と共有することにより、ケアマネジメントの底上げを図った。

ケアプラン点検は1月おきに6件ずつ計36件を点検する予定であったが、令和3年度は通所介護事業所の個別支援計画と担当ケアマネジャーのケアプランの連動性に注目した点検を行った。（12月）

点検数は減少したが、個別事案の点検を行ったことでケアマネジャーの具体的な疑問点の解決・技術向上の支援につながられた。また、通所介護事業所担当者が個別支援計画書の重要性、ケアプランとの連動性について再確認するきっかけとなった。（個別支援計画書7件、ケアプラン3件）

ケアプラン点検の際、ケアマネジメント資料に「自己点検表」を追加し、自己採点の視点を加えることで、客観的視点からの指摘と両面から振り返りを促した。

今後は、ケアマネジャー同士の相互点検など、点検方法を工夫し、ケアマネジャー自身が事業の趣旨を理解した上で効果的な取組ができるよう点検の質の向上を目指す。

【R4上半期自己評価等】

令和4年度上半期は未実施。

今年度は、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム等の居住者のケアプランを作成している居宅介護支援事業所を対象にし、高齢者向け住まい等サービス付き高齢者向け住宅等居住者のケアプラン点検を実施する予定。「入居者のニーズを超えた過剰なサービス」を位置づけているいないか、ケアプランの内容が入居者の自立支援や重度化防止等につながっているかの観点からの点検・検証を行う。（R5.2月予定）

◆住宅改修の点検

施工前現地確認

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
100%	100%	100%	100%	100%	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

改修前に関係者で工事の内容、必要性を確認し、利用者の状態像に合わない不要な改修や対象外となる改修を未然に防ぐことに繋がった。

現地確認件数 54件中、54件



【R4上半期自己評価等】

施行前の全数訪問調査を行い、改修前に関係者で工事の内容、必要性を確認し、利用者の状態像に合わない不要な改修や対象外となる改修を未然に防ぐよう努めた。また、訪問する際は、住宅改修「前」の点検確認シートを持参し、住環境評価や改修の必要性の確認作業がスムーズに行えるよう、点検方法の標準化に取り組んでいる。

現地確認件数（R4.4月～9月末） 45件中、45件

リハビリテーション専門職による点検

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
10%	50%	10%	62%	10%	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

家族や利用者の状態に対応した住宅改修となるため、施工前の現地確認に本課所属の理学療法士が同行する体制を構築した。専門的視点での助言・提案を受けながら点検を行った。

今後は、地域の理学療法士等と情報共有などを行い、継続的・積極的な協力を得て、更なる体制整備を図る。

【R4上半期自己評価等】

工事施行前の現地確認に本課所属の理学療法士が同行して点検を行う取組を継続している。本人やご家族との聴き取りで得られる情報から、身体機能を評価し、必要性の検証のほか、改修内容の助言・提案を行うことができた。

現地確認件数（R4.4月～9月末） 45件中、28件

◆福祉用具購入・貸与の点検

福祉用具の購入・貸与訪問調査

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
24件	24件	24件	3件	24件	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

モニタリング訪問に同行し、軽度者（要支援1～要介護2）への福祉用具貸与（例外給付）の対象者について、実態把握のための訪問調査を行う（令和4年3月）予定。令和3年度中に新規で申請のあった例外給付対象者を抽出し、アセスメントにて福祉用具利用の必要性について自立的観点から導入を検討されているか、利用者の実態把握を行う。併せてケアマネジャーのモニタリング評価についても点検を行う。

【R4上半期自己評価等】

今年度は住宅改修の施行前の現地確認に合わせて、福祉用具貸与の調査を行うことを計画していたが、住宅改修を希望するケースでは、福祉用具貸与を開始していない新規の要介護認定者が多く、見込んだ件数の調査を同時に実施することが難しいことが分かった。要介護度と日常生活自立度に注目して、事前に点検対象者の抽出を行い、別途調査期間を設けて年度内に実施することとしたい。

◆縦覧点検

縦覧点検分析結果を実地指導に活用

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	0回	2回	0回	2回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

国保連合会に委託し縦覧点検を実施したが、分析結果の活用ができなかった。

今後は、縦覧点検の結果をもとに提供される主要4帳票（①算定期間回数制限縦覧チェック一覧表、②重複請求縦覧チェック一覧表、③単独請求明細書における受付審査チェック一覧表、④居宅介護支援請求におけるサービス実施状況一覧表）を活用し、サービスの偏りの分析を行い、実地指導に活用する方法を検討する。

【R4上半期自己評価等】

国保連合会に委託し縦覧点検を実施した。サービスごとの傾向を分析し、居宅介護支援事業所の運営指導におけるケアマネジメント指導に活用する予定。

◆医療情報との突合

医療費情報突合リストによる点検

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
100%	100%	100%	100%	100%	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

国保連合会の審査情報（医療給付情報突合リスト）を基に、健康保険課レセプト点検係と連携し、介護側の入所・入居系サービスと医療側の入院情報の突合作業を行った。過誤処理へ繋がるケースはなかったが、医療と介護の重複請求を防ぐため、今後も継続していく。

【R4上半期自己評価等】

国保連合会の審査情報（医療給付情報突合リスト）を使い、医療保険担当課のレセプト点検係と連携して、医療保険と介護保険の両制度の給付が重複したり、同時には成立し得ない不当請求等の確認作業を行い過誤発見に努めた。過誤処理に繋がるケースはなかった。

◆介護給付費通知

リーフレット等を活用した効果的な通知

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
4回	3回	4回	2回	4回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

サービス利用者全員に対し、介護給付費通知書を4回発送し、うち3回は次のとおりリーフレット等を同封した。

「介護給付費通知書の見方」に関する説明を記載したチラシを同封し、掲載内容を利用者に分かり易く伝える工夫を行った。

「自宅で出来る健康づくり」、「栄養不足や栄養の偏りによる免疫力低下」に関するリーフレットを同封し、介護予防の啓発を行った。

介護給付費通知書発送 4月・7月・10月・1月 計4回

うち、リーフレット又はチラシ同封 4月・7月・1月 計3回

【R4上半期自己評価等】

介護給付費通知書の発送に合わせて、重症化予防と介護予防の啓発のためのリーフレットを同封した。

今後も介護給付費通知書の発送に合わせて、重症化・介護予防に関心を持ってもらえる内容の通知となるよう努力する。

介護給付費通知書の発送時のリーフレット

(5月11日)「足腰が衰えない生活の工夫を」自宅で出来る健康づくりに関する内容

(7月22日)「高齢者のための熱中症対策リーフレット」夏場の熱中症リスクの周知

◆給付実績の活用

適正化事業に関する検証作業への活用

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
6回	5回	6回	0回	6回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」、「福祉用具貸与費一覧表」を適正化事業の訪問調査対象者を抽出する基礎資料として活用する。(3月)

「生活援助中心型実績一覧」により、厚生労働大臣が定める回数以上の過剰な訪問介護(生活援助)をケアプランに位置付けている利用者を担当するケアマネジャーを抽出し、検証を行った。これまで、担当ケアマネジャー、包括支援センター職員、介護保険係職員で検証を行っていたが、令和3年度から地域ケア会議の中において多職種による検証を行った。サービス提供事業所、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師等の新たな視点が加わったことにより、基準超えのケアプランについて再検討を促し、適正化を図った。4回(7月、11月、1月、3月)

【R4上半期自己評価等】

上半期は未実施。

「支給限度額超過利用者一覧表」を活用し、ケアプランの点検対象者を把握する。（2月）

「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」、「福祉用具貸与費一覧表」を適正化事業の訪問調査対象者を抽出する基礎資料として活用する。（3月）

◆適正化事業の体制強化

見える化システムを活用した地域間分析

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1回	1回	1回	0回	1回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

2月に分析を完了し、分析結果はホームページ等で公表予定。

【R4上半期自己評価等】

年度末に分析を行う。結果はホームページ等で公表予定。

◆口腔ケアの取組

口腔ケアマネジメントに関する研修

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
1回	1回	1回	0回	1回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

口腔機能の維持管理の重要性を認識してもらうために、市内介護事業所向けの研修会で口腔ケアについて講話を実施する（R4.3）。

今後あらゆる機会、場所において、生涯を通じた口腔ケアの重要性を伝え、定期的な受診へ結びつけることによりQOL（生活の質）の維持向上、重度化防止等を図る。

【R4上半期自己評価等】

上半期は未実施。

感染症の状況を見極めながら年度内に実施する予定。

口腔体操の普及（元気アップ教室実施全団体）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
17団体	10団体	35団体	12団体	52団体	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

口腔体操の普及を継続して行った。昨年度に普及を行った団体へ歯科衛生士によるフォローを行い、口腔体操の動作の的確な実施に繋がった。今後は、オーラルヘルスへの意識が低い参加者へ歯科衛生士による講話等を実施し、意識付けを図っていく。

【R4上半期自己評価等】

9月末までに口腔体操普及済の団体を16団体と計画していたが、8月以降市内のコロナウイルス蔓延により12団体のみの実績となった。11月から口腔体操普及を再開し、オーラルフレイルの防止を図っていく。

○ 円滑な運営のための体制づくり

●介護保険制度の周知・積極的な情報提供

【R3自己評価等】

令和3年度介護保険制度改正について、リーフレットを作成し全戸配布した。4月26日  
負担限度額の基準等の改正について、認定証の更新決定通知時にチラシを送付した。8月1日

【R4上半期自己評価等】

市民から介護保険制度について聞きたいとの意見があり、地域サロン活動で「介護保険サービス利用の流れについて」という講話を2回計名22名に対して実施。10月以降も4か所での講話を予定している。

市のホームページ構成を市民が利用しやすいように見直しを行う。

●PDCA サイクルの確立による効果的な事業運営

取組に対する目標達成状況の公表（HP）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	実績
2回	1回	2回	1回	2回	

R4上半期実績

【R3自己評価等】

上半期（4~9月分）を11月に公表予定であったが実施しなかった。

1年分（4~3月分）の評価を行い、5月に公表する予定。

【R4上半期自己評価等】

令和4年5月に、県配布の「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標に関する自己評価シート」を用いて、第8期計画の初年度となる令和3年度における事業の進捗や達成度について自己評価を行い、結果を市ホームページに掲載した。